

あとがき

「山の中でも三軒家でも住めば都よわが里よ」といわれるように、人は住みなれたところに強い愛着をもつものです。

私たちの祖先は、遠い昔この地に住みつき生業に励み、子孫を育てながら生活の智恵を積み重ねて歴史と伝統を残しつつ文化をつくり上げてきました。

わたしたちは、こうした祖先や先人の尊い足跡の一端を記録にとどめ、偉大な業績や文化を継承し、さらに努力して郷土の発展に寄与し、これを後世に譲り渡す義務と責任があるのではないかと思います。

このような観点からわたしたちは、中川鬼子太郎村長の意志により、面河村誌編さんを企画したのであります。

この編さん委員として資料の収集やまとめのために本務のかたわら、しかもほとんど夜間の作業となりたいへんな御苦労をされました村内各学校の校長先生はじめ諸先生がたの御努力はなみたいのことではなかったことを想起し感謝に耐えません。

また、半ばにして病のため最後まで執筆はできなかったものの、こつこつと資料の整理とその大綱を手がけられた中川武久氏の御努力に深く感謝と敬意を表します。

さらにまた県史編さんの大事業に事務局長の重任をもたれ極めて御多忙の中で面河村誌の監修をいただき、本誌の価値を高めてくださった伊藤先生のお力添えに對し心からお礼を申し上げる次第であります。

こうした周囲のかたがたの温かい御協力によって完成した村誌ですが、古い資料古文書の類は意外に少なく、残さ

あとがき

れた手段は古老からの聞き書きに頼らなければならなかったため、真実を伝えられないこともあり、内容的に不備な点も多く、また、予算的制約もあつて形式的にもかなりの無理があつたことは否めません。これを一つの足がかりにして、後年またの機会に改訂補てんされることを願う次第であります。

昭和五十五年二月

面河村教育委員会教育長 高岡 幸盛

面河村誌の編集に携わった人々（順不同敬称略）

編集委員会

会長 中川鬼子太郎 副会長 脇本武雄 副会長 高岡幸盛

顧問 菅福定 嘱託 中川武久

特別顧問 伊藤義一

委員 江戸昌宏 田本芳夫 古田隆 団上朝雄 郷田光生 新田保

森茂喜 渡部奏 村上光男 竹内英一郎 天野昭好 玉井時廣

浦辻洋一 元川義信 玉井憲昭 三好明 岡田時晴 西山正夫

大塚卓司 岩崎一雄 土居明生 山中国広 渡部満 赤松孝男

松原茂 平松義樹 土居通泰 高野忠夫 堀川春夫 高岡猛

浅川主水 立石康 大原忠明 辻田正明 岡本純輝 野本和伯

水口義一 石原秀雄 中川正直 木下勲 小倉元義 中川英明

高岡義朝 松本光夫 高岡勇三郎 和泉太郎 三浦盛信 中川忠幸

菅光義 伊藤重光 菅詮明 脇本正之 高岡君夫 中川優

松村義一 梅木正一 高岡一郎

面河村誌

昭和55年3月31日 発行

編さん責任者 中 川 鬼子太郎

発 行 者 愛媛県上浮穴郡面河村

印 刷 **株式会社 きようせい**

東京都新宿区西五軒町52

四国支社 松山市二番町4-1-2

電話 0899-32-3162~4
